

2023年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準1 理念・目的

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
102	仏教活動奨励金について、積極的に募集をおこなうとともに、採択した活動の進捗確認を行いつつ助言を含めた支援をおこなう。
102	コロナ後を見据え、新入生本願寺参拝のあり方の検討を開始する。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
新入生本願寺参拝を再開するため、そのあり方を検討することが望まれる。【留意点】	
仏教活動奨励金は応募件数が減少しているため、応募者数を増やすことが課題である。【留意点】	
奨励金の受給団体（又は個人）の計画の進捗を確認し、目的達成に向けた助言や支援を行うことが望まれる。【留意点】	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ①建学の精神の設定とその内容 ・目指すべき方向性 ・育成する人間像	A
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ①建学の精神の普及と醸成 ・学生及び教職員への周知・理解 ・教育・研究・社会貢献における具現化	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

101 建学の精神をHP、学生手帳、出講手帳に掲載。建学の精神冊子「龍大はじめの一步」を全学生に配布している。(101①、②、③、④)	
101 建学の精神にもとづいた教育理念・目的を定めている。(101⑤)	
102 原則として朝の勤行、法要・講演会をオンラインで配信し、ホームページでアーカイブ一覧を公開している。このため継続して視聴が可能となり、多いもので26,000再生を超えている。(102①)	
102 構想400APおよび仏教SDGsの具現化を目指し、教職員対象(一部学生に公開)の「現代的課題と建学の精神プログラム(オンライン)」を5回開催した(参加者38~340名)。開催後はアンケートをとりプログラムの検証や今後の参考に行っている。(アンケートでの参加者評価は高い)(102②)	
102 仏教活動奨励金は、前年度までは渡し切りの奨学的事業であったが、今年度から実際に支出した金額のみを給付し、その間、学生から進捗状況を聞きながら支援をおこなった。2022年度はプロジェクト部門5件(応募5件)、フォトエッセイ部門7件(応募11件)に助成・支援した。宗教部等の積極的な助言により、プロジェクト部門のうち、中島岳志氏を招いて、学生、学長、清水耕介教授をまじえたシンポジウム(ハイブリッド)を成功させるなど、大きな成果を得た活動を支援することができた。(102③、④)	
長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	
項目 No.102	・オンライン企画「現代的課題と建学の精神プログラム」の継続的な実施(102⑤) ・SNSやQRコードを用いたデジタルコンテンツとアナログコンテンツの相互活用(102⑥)
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.102	・就任時研修以降、教職員を対象とした建学の精神を学ぶ機会が少ないこと。 ・新入生本願寺参拝の代替として公開した動画は一定の視聴(2年で1,900人)があったものの、本願寺参拝と比較して参加者(視聴者)が少ないこと。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等)への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・仏教活動奨励金について、採択した活動の進捗確認を行いつつ助言を含めた支援をおこなった。(102③、④)	
・本願寺参拝は前年度に引き続き、動画を新たに作成し配信した。(2023.3公開(5/19現在984回再生)(102⑦))	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策(到達目標を含む)
102	オリエンテーション期間中の新入生本願寺団体参拝に代えた実施方法を今年度中に取りまとめ、次年度から実施する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	①	101①建学の精神(HP).pdf
	②	101②建学の精神(学生手帳).pdf
	③	101③建学の精神(出講手帳)
	④	101④龍大はじめの一步.pdf
	⑤	101⑤教育理念・目標.pdf

102	①	オンラインアーカイブ
	②	102②現代的課題と建学の精神プログラム：アンケート結果.pdf
	③	102③仏教活動奨励金.pdf
	④	102④仏教活動奨励金：宗教文化講演会.pdf
	⑤	102⑤現代的課題と建学の精神プログラム 2020-2022.pdf
	⑥	102⑥SNS 掲示板.pdf
	⑦	https://www.youtube.com/watch?v= VdfgUIDM-I

II. 評価結果

総評
<p>101①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神のもと大学の教育理念・目的を設定し育成する人間像を明示しており、各学部・研究科は、教育理念・目的を実現することを目的に設置されている。また、建学の精神、教育理念・目的は、HP や学生手帳等を通じ社会及び構成員（学生、教職員）に周知している。 <p>102②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の勤行、法要・講演会をオンラインで配信し、HP でアーカイブ一覧を公開している。また、構想 400AP および仏教 SDGs の具現化を目指し、教職員対象（一部学生にも公開）の「現代的課題と建学の精神プログラム（オンライン）」を 5 回開催した。このように、建学の精神の浸透・深化を図るための取り組みが適切に行われていると評価できる。 ・新入生本願寺参拝のあり方（再開）について、検討をしたのかを含め、具体的な記述がない。次年度以降の再開に向けて、参拝のあり方を検討することが望まれる。 ・仏教活動奨励金への応募件数は、前年度に続き減少している。しかし、一部の奨励金の受給団体・個人に目的達成に向けた助言や支援を行い、内容的に大きな成果を導いたことは評価できる。継続して助言・支援を実施することを期待したい。 <p>以上から、大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を設定し、学則等に適切に明示している。さらに、それらを教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していると評価できる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<ul style="list-style-type: none"> ・「現代的課題と建学の精神プログラム（オンライン）」を実施した。 ・仏教活動奨励金の受給団体・個人への目的達成に向けた助言や支援を行った。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の本願寺参拝のあり方を取りまとめ、実施に移していく。【留意点】 ・仏教活動奨励金の応募者数を増やすことについて検討を行う。【留意点】

2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準1 理念・目的

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3つの方針検証委員会」を中心とした恒常的に教育活動の検証・改善体制のもとで、継続的な見直しをはかる。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	A
	①建学の精神と大学の教育理念・目的の連関性 ②大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性 ③学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容	
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	A
	①学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ②教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等の周知及び公表	

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

<p>現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。</p>	
<p>101① 建学の精神と連関した「龍谷大学の教育理念・目的」を設定している [101a]。</p> <p>101② 大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を担保するため、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」）について策定の基本方針を設定している [101b]。</p> <p>101③ 学部・研究科ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的を示した「教育理念・目的」を設定し、そのもとに3つの方針を定めている。2015年度に「龍谷大学の教育理念・目的」及び「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」が策定されたことから、学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性や、3つの方針相互の整合性をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し（2016年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）[101c]、作業のもとで検討を重ね、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった（2018年度第6回全学教学政策会議〈2019.1.24〉報告）[101d]。</p> <p>その後、2019年度には、本学における教学マネジメント体制の一環として、全学教学政策会議のもとに「3つの方針検証委員会」を設置した [101e]。さらに、本学の教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的かつ継続的に実施するため、「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。〈2019年度第1回全学教学政策会議（2019.4.25開催）承認〉[101f]。</p> <p>2021年度には「龍谷大学アセスメントプラン」を定め、学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化を行い、かつ適切に検証・改善するための指標とし、恒常的に教育活動の検証と改善を行う体制を構築した[101g]。</p> <p>2022年度においては、『アセスメントプラン』にもとづく学修成果・教育成果を検証すべく、全学的な視点である「大学全体レベル（全学）」の指標にもとづき、経年比較および学部間の比較による検証を行い、その検証結果については3つの方針検証委員会および全学教学政策会議にて報告した[101h,i,j,k]。</p> <p>また、「3つの方針検証委員会」では、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」について、全学的な見地からの確認および修正を行っている[101l]。</p>	
<p>102① 学部においては学部毎に、短期大学部及び研究科については、学科（専攻）毎に、学則において適切に明示されている [102a]。</p> <p>102② 本学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等については、各学部・研究科の履修要項や学生手帳、出講手帳、大学HPにおいて確認することが可能となっており、教職員、学生、社会に対して適切に公表されている [102a,b,c,d,e,f,g,h]。周知の方策については、教員に対しては、年度始めの教授会や研究科委員会で、学生に対しては履修登録説明会等でなされている。</p> <p>以上のことから、大学の理念・目的を踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定、公表していると評価する。</p>	
<p>長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの</p>	
102②	「教育理念・目的」については、履修要項・学生手帳・出講手帳・大学HPなど多様な方法で公表し、年度始めの教授会や研究科委員会等で確認している。
項目 No.	
<p>課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点</p>	
項目 No.	
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
101③ 「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」について、全学的見地からの確認及び一部修正等を行った。また、2021年度に策定した『アセスメントプラン』にもとづく学修成果・教育成果の検証について、全学的な視点である「大学全体レベル（全学）」の指標にもとづき、経年比較および学部間の比較による検証を行い、その検証結果については3つの方針検証委員会および全学教学政策会議にて報告した。
102① 学部・研究科の「教育理念・目的」については、毎年度初めの教授会等で変更の有無について確認がなされ、適切性が確認されている。
102② 学部・研究科の「教育理念・目的」等の変更については、媒体間で齟齬が生じないよう、教学部及び当該学部・研究科が連携し、学部については履修要項の共通原稿を作成するなどして確認を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3つの方針検証委員会」を中心とした教育活動の検証・改善体制のもとでの継続的な確認、見直し

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	a	龍谷大学の教育理念・目的【ウェブ】
101	b	学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」）策定の基本方針【ウェブ】
101	c	3つの方針一体的見直し作業部会の設置について（提案）<2016年度第2回全学教学会議 資料>
101	d	各学部等における「卒業認定・学位授与の方針」（DP）及び「教育課程編成・実施の方針」（CP）の見直し結果について（報告）（2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>資料）
101	e	「3つの方針検証委員会」の設置について（提案）<2019年度第1回全学教学政策会議>
101	f	「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」の策定について（提案）
101	g	2021年度第2回3つの方針検証委員会資料（抜粋）
101	h	2022年度第3回3つの方針検証委員会議事録・2022年度第4回全学教学政策会議議事録
101	i	2022年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証シート
101	j	2022年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証報告
101	k	2022年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果の検証について
101	l	2022年度第1回～第3回 3つの方針検証委員会 議事録
102	a	龍谷大学学則（抜粋）
102	b	龍谷大学大学院学則（抜粋）
102	c	龍谷大学短期大学部学則（抜粋）
102	d	2022年度 各学部履修要項
102	e	2022年度 各大学院研究科履修要項
102	f	2022年度学生手帳
102	g	2022年度出講手帳
102	h	大学の教育理念・目的、学部・研究科の「教育理念・目的」【ウェブ】

II. 評価結果

総評
101①②③, 102①② ・本学は、大学の理念・目的を踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定、公表していると評価できる。 ・自己点検・評価の内容が対象年度より対象年度以外（過去の活動）に偏重している。基本的には、対象年度に関わる内容の評価をしていただきたい。 ・2022年度には、アセスメントプランによる学修成果・教育成果の検証を行い、全学的な見地からの確認を行ったことは評価できる。今後は、浮き彫りとなった課題の解決に着手することを期待する。
長所・特色《箇条書き》
・毎年度、教授会や研究科会議において、「教育理念・目的」等の変更の有無を確認している。 ・「3つの方針検証委員会」で、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」について、全学的な見地からの確認および修正を行っていること。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載